

第24回 こうう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成29年1月12日(木)

交 流 会

- ・ 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- ・ 自分の職種では何ができるか など
✿グループ発表後は、自己紹介タイムです。

今回のねらい

「一人ひとりの気づきをどのようにチームケアにつなげるか、それぞれの職種でできることを考えみよう」

- ・ 実際に歯科衛生士が行っている口腔ケアを見たい。粘膜ブラシにはどのようなものがあるのか見たい。(医師)
- ・ 義歯について 非常に使いにくい義歯を使っている高齢の方がいる(分厚い義歯等)。義歯の由来は専門の方に見てもらわないと分かりにくいかもしれない(歯科医師)。
- ・ 高齢者の主訴が分からないことがある。そのため患者家族への確認が必要なこともある(歯科医師)。
- ・ 義歯の不適合などは家族やケアマネからの依頼で対応することがある。施設へ訪問することもあるが、身体状況や薬について知りたいと思う。多職種の連携が必要。(歯科医師)
- ・ 義歯を外して口腔ケアを行っているが、個々の口腔状態を把握できていない。義歯が合っていない方がいる。(デイサービス)

- 施設として歯科衛生士を配置し、口腔ケアに取り組んでいるのはすばらしいと思った(医師)。
- 現在、訪問診療を行っていない。自宅での治療後の体調変化の心配や診療報酬の請求事務・訪問診療の条件などハードルが高い(歯科医師)
- 歯科衛生士に関わってもらいたいが、小規模の介護事業所では、その経費捻出に苦慮。口腔ケアの取組みが利用者の経済的負担増にもつながる場合もあり難しい。(デイサービス)
- 夜間に入れ歯を外したほうが良いとか悪いとか、いろいろな考え方がある。もう少しガイドラインやコンセンサスがほしい(医師)
- 定期健診に来ない人もいる。(歯科医師)
- 健診に行けなくなっている人、忘れてしまっている人も多いのでは。その人たちへの対応が課題(ケアマネジャー)

- ・ 口から食べられることが重要。どのような状態であるかを確認して歯科に連絡を。ケアマネジャーの仕事が重要。
- ・ 歯科治療実施の際、全身状態について心配される。ケアマネジャーや看護師と共に関わると安心できる(歯科医師)。
- ・ 介護現場の看護師も口腔の勉強をする機会がほしい(看護師)。
- ・ フッ素の効果は大人でもある。元気なときから実施していくとよい。
- ・ 歯科衛生士は歯科医師の指示がないと動けない。医師の指示でも可能になれば地域での取り組みは進むのではないか(歯科医師)。
- ・ 歯科訪問診療は治療をしないと点数は取れない(様子を見るだけでは算定不可)。滞在時間にも条件がある。算定基準が厳しい(歯科医師)。

- ・ 訪問診療の依頼先がわからない。地区別で訪問診療ができるところが明確にわかると良い。(理学療法士)
- ・ スポンジの使用について学びたい。寝たきりの方には、後屈傾向を改善するための福祉用具の利用を勧めている(福祉用具相談員)。
- ・ 介護予防として口腔ケアの啓発が必要。元気な高齢者に対して認知症の予防のように啓発していくと良い(保健師)。
- ・ 認知症が進行した方への対応を依頼できるか。今後体制作りが必要。
- ・ 口腔ケアの依頼は少ない現状。口腔ケアが全身状態の向上につながることを伝えていかないといけない。

- 入れ歯のぐらつきや痛みがある高齢者が多い。
- 義歯が合わないという場合が多いが、訪問歯科診療で義歯の新調は困難。
- かかりつけ歯科が歯科医師会会員ではない人も多く、実際にどのくらいの歯科医師がすぐに動いてもらえるかは不明。歯科医師会入会の有無に関わらず、直接かかりつけ歯科に相談して欲しい（歯科医師）。
- 地域包括センターの職員やケアマネジャーと歯科衛生士が口腔の相談に対して初回訪問できる仕組みが作れるとよいのではないか。歯科医師に相談する前に歯科衛生士がチェックできるとよいのではないか。

- ・ 口腔ケアは継続的に行うと効果があることは理解できたが歯科衛生士に継続的に関わっていただくにはマンパワーが足りないのではないか。
- ・ 10年前と比べるとデイサービスでは口腔ケアが意識されている。口腔体操や唾液腺マッサージ、食後のうがいや義歯清掃などが行われている。しかし、口腔内の評価や個別ケアは十分ではない。
- ・ デイサービスで口腔ケアを嫌がる人に対してどのようにアプローチしたらよいか悩んでいる。
- ・ 在宅診療に来てもらえるかどうかの相談窓口やどのような状態なら歯科受診につなげたらしいのか判断が難しい。
- ・ かかりつけ歯科がわからない人も多い。

- ・ デイサービスでの昼食後の口腔ケアは本人任せになる場合もあるがやはり見守りは必要だと感じている。
- ・ 口腔内のアセスメントが十分ではない。現在多職種で共有できるアセスメントシートの作成が進められている。
- ・ 口腔ケア維持管理加算がなかなか算定できない。
- ・ 訪問歯科にどのようにつなげたらいいのかわからないといった声もある。
- ・ 啓発活動が必要。実践事例を共有できるような場、困った事例を話し合える場が必要だと思う。
- ・ 以前実施されていた「寝たきり老人訪問歯科指導」を再開していくといいのではないか。

(「寝たきり老人訪問歯科指導事業」:行政担当課に申し込み、事前に歯科衛生士の問診が行われ、歯科診療につなぐ。また講演活動も行われていた)